

# 飛躍する「牡鹿半島国有林

## ふれあいウォーク」

— 地域と国有林との結びつきの中で —

石巻営林署 ○森林活用係 佐々木正道

収穫係 小野田 大

総務課長 菊池 二郎

### 1. はじめに

石巻営林署管内は、宮城県の東部海岸に位置し、国有林野所在市町村は1市9町と広範囲に渡り主にスギ・アカマツ・ヒノキ・モミ等が生育している。

当署管内牡鹿半島の先端には、全国的に有名な「南三陸金華山国定公園」の名のもと海上にはぽっかり金華山が浮かび、昔より信仰の霊島として広く知られている。

### 2. 取組の経過

#### (1) 「牡鹿半島国有林ふれあいウォーク」を実施した目的（写-1）

週休2日制の定着化による余暇の増大や、人生80年時代と言われる高齢化社会の現在、生涯学習の大切さが言われている。このような社会的要請の中、健康を増進し楽しみながら学習できるスポーツとしての森林浴が人気を呼び、国有林野にも多数の人達が入込んでいる。

しかし、酸性雨や温暖化の問題、森林の果たす空気の浄化や水資源の平準化等様々な公益的機能のことについて、まだまだ十分に理解されているとはいえない。このような観点から、「牡鹿半島国有林ふれあいウォーク」を実施したものである。

#### (2) 3者共催について

タイトルの中に「国有林」と入っているとおりこのイベントは、当署が宮城県歩け歩け協会と宮城県牡鹿町に働きかけ、開催の運びとなったものであり、職員皆で取組んできた。

3者実行委員会は、営林署や牡鹿町役場を会場として開催した。（写-2）

#### (3) 場所の選定

当署管内の牡鹿半島、金華山を中心とする南三陸金華山国定公園は、すばらしい山や海の景色があり、豊富な樹木や山野草等々、国有林と地域の方々との結びつきは深く、国有林とのふれあいにもっとも適した場所のひとつである。

実行委員会で検討した結果、初めて実施した平成8年7月は「大海原眺望コース」で、国有林の中を歩きながら海と金華山が見えるコース、同年8月には「谷川林道コース」で国有林の谷川林道をメインに、それぞれ16kmを設定した。（写-3・4）

今年度は、昨年好評だった「大海原眺望コース」で、昼食場所は国有林内のモミの原生林を活用した。

#### (4) 参加者募集のチラシ作り

チラシは各コースの開催要領と、参加申込み方法・歩く距離・参加する服装や持ち物・その他注意事項等を網羅したものとし、コースの順序やその距離も記入した分か

りやすいものに心掛けた。(写-5)

(5) マスコミ等によるPR

ア 当署では、「牡鹿半島国有林ふれあいウォーク」や各種イベント等実施すること  
に、新聞社に直接出向き、説明するなどして当署の施業に対する考え方を理解して  
いただき、PRの効果を上げている。(写-6・7)

イ 日頃仕事を通じて付き合いのある業界や団体には、ご案内の手紙を郵送したり、チ  
ラシをマスコミ及び市内の主なガソリンスタンドなどにおいて掲示した。

ウ 地元牡鹿町庁舎等には、後援団体から贈られた横断幕や垂れ幕などを掲示し、イ  
ベントを盛り上げた。(写-8)

エ さらに牡鹿町では仙台市内のマスコミを通じてPRをしてきた。

オ また、歩け歩け協会では「会報や新聞」による広範囲なネットワークにより、会  
員への呼びかけや会員から一般参加者への口コミが行なわれた。

(6) 完歩賞や記念バッジの作成(写-9)

牡鹿町のシンボルである鯨と、国有林のマークが入った「完歩賞」「記念バッジ」  
は参加者全員に配られ、思い出に残るものとなった。

(7) 参加者の状況(写-10)

PRの結果参加状況は下表のとおりで、平成8年の第1回記念大会7月の「大海原  
眺望コース」には380名、8月の「谷川林道コース」には220名、今年度の第2  
回「大海原眺望コース」には約800名の参加があった。

主な 市町	平成8年7月			平成8年8月			平成9年11月		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
他 県	1		1				2	2	4
仙台市	71	65	136	48	44	92	159	168	327
石巻市	38	47	85	28	23	51	21	90	111
塩釜市	8	7	15	4	3	7	13	17	30
富谷町	8	9	17		1	1	1	3	4
矢本町	7	14	21	5	8	13	10	16	26
牡鹿町	9	12	21	10	8	18	22	19	41
その他	43	39	82	22	20	42	100	160	257

計	185	193	378	117	107	224	328	475	800
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

ア 平成8年の県外参加者は秋田県、平成9年は遠くで千葉県、それに福島や山形県からも参加があった。

イ 平成9年には、45の市と町から幅広い参加となった。

### 3. 「牡鹿半島国有林ふれあいウォーク」を実施しての結果

- (1) 当署では次長を実行委員長とし、コース説明等を分かりやすく掲載した大会誌を作成し、初心者も気軽に参加できるように配慮したこと等から、今年度は約800名の参加者となった。
- (2) 当日は、本部テントでは来賓の接待、昼食場所ではお茶の接待、ウォークチームは署長をはじめ、先頭・中央・最後尾にそれぞれ配置し、参加者との交流を図りながら国有林のPR等、職員一体となってイベントを成功へと導き、参加者や地域からの信頼を増すことができた。(写-11)
- (3) 牡鹿町ではゴール地点において、地元のシンボルである鯨の焼肉を参加者全員にふるまったところ「鯨おいしかった。」など大好評だった。
- (4) 県内外からの参加者や外国人の方など多数の参加は、歩け歩け協会のネットワークが功を奏しているとはいえ、確実に参加の輪は広がっている。

### 4. 考察

- (1) 初めて参加した中年女性は、「来年も是非参加したい。体のためにもいいし眺めもとても良かった。」と言っていた。引き続き実施することへの期待の大きさがうかがえる。
- (2) 職員一丸となりイベントを盛り上げたことは、「来年もこれまでどおり一緒にやってもらいたい。」という声にみられるように、地域からの信頼と共に地域の活性化に貢献できたものと思う。
- (3) 何ととっても2001年宮城国体デモ・スポ行事に内定したことは、地域はもとより歩け歩け協会、国有林にとっても大変意義深いものとなった。
- (4) 今後の課題
  - ア 「営林署の人から聞いて、沿道の樹木や植物に案内板を設置してほしい。」等の要望に応え、コースの環境整備をする必要がある。
  - イ 簡易トイレには、特に女性の長い列ができ不便を感じたので、適切な改善が求められる。(写-12)
  - ウ 「昼食時間は寒かったので、もっと開催時期を早くできないか。」また、「もう少し林の中を歩かせてほしい。」等の声があり、出来るかぎり参加者の期待に応えより良いコース整備に努力していくことが大事になってきている。

### 5. おわりに

この「牡鹿半島国有林ふれあいウォーク」は、宮城県歩け歩け協会と宮城県牡鹿町と

の3者共催で力を合わせて開催することができた。これも、各関係機関の惜しみない協力があればこそである。

森林は、炭酸ガスを吸収する機能やそこにあるという環境材としての重要性が高く評価されつつある。森林の必要性や働き、大切さについて、多くの方々に理解していただけるよう、機会あるごとに職員一同精一杯努力し、地域と国有林の結びつきをさらに大事にしてゆきたいと思う。

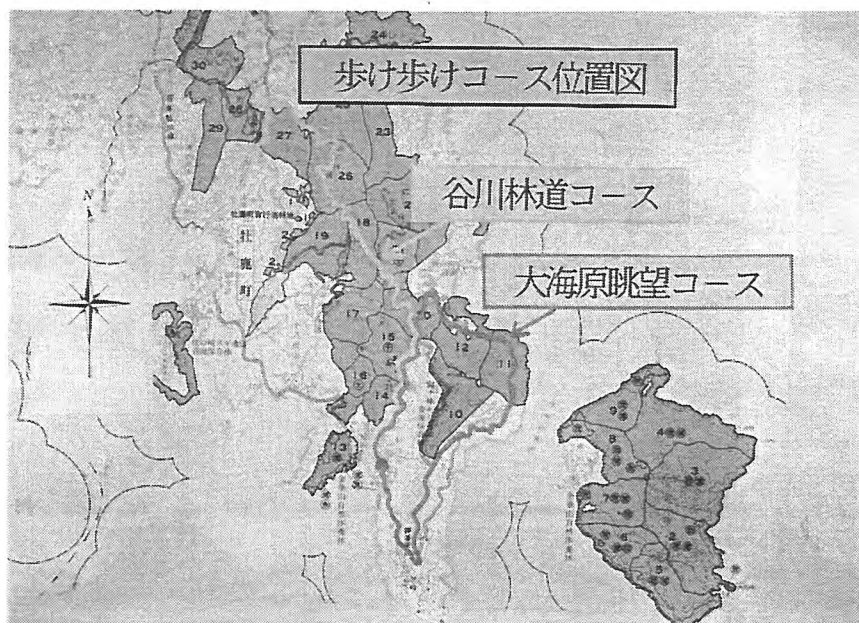


写-1 開会式の全景



写-2 3者の実行委員会





写-3 歩け歩けコース位置図



写-4 歩いている様子



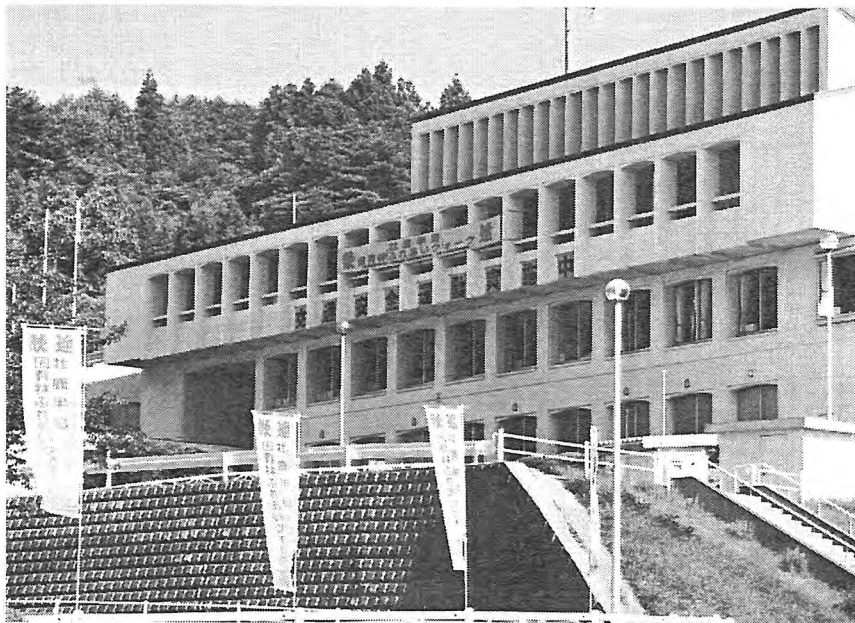
写-5 延べ3回の大会誌



写-6 新聞に掲載された記事



写-7 参加募集のチラシ



写-8 掲示された横断幕と垂れ幕



写-9 完歩証と記念バッジ



写-10 モミの木原生林で昼食の様子





写-11 お茶の接待をしている様子



写-12 トイレに列ができた様子